被災地復興へ「経済ドクター」一直線

須藤翼さん、公認会計士試験「3年合格目標達成」

復興が進むふるさと石巻市（撮影2014年１月１日）＝本人提供

東日本大震災が契機となり、中央大学経済学部の須藤翼（すとう・つばさ）さん（経4）は公認会計士を目指した。3年次の昨年11月に見事合格。経済のドクターとして、近い将来、被災地復興・経済発展へ意欲を示す。

「ムッ、この揺れなら震度３か４だな」。東日本大震災以来、地震にいっそう敏感になった。宮城県から上京した１人暮らしでもそれは変わらない。

地鳴りで地震発生と震度が分かるという。取材日の朝も震度４の地震に見舞われた。「ええ、音で分かりました」

人のため尽くしたい

５年前の３月11日は仙台市の東北学院高に通う１年生だった。仙台市や東北地方に大きな被害をもたらした震災が、自らの進路にも影響するとは、このとき、思わなかった。

避難を突然強いられた。発生時は机の下で身を守った。揺れが収まったかにみえたとき、大声が聞こえた。「外に逃げろ！」「津波がくるぞ！」高校は仙台港の近くにある。校舎デッキ上に系列の中学・高校の生徒ら1900人超が駆け上がり、海を見つめた。

須藤さんは幸いにも家族と連絡が取れて、無事を確認した。が、帰宅は交通機関が遮断されて断念。以来、図書館などで１週間過ごした。

携帯ワンセグなどに情報が入るたび、被害の大きさに驚がくした。仙台空港が冠水した、友人の自宅が倒壊した、逼迫（ひっぱく）した状況が押し寄せてくる。

高校教諭らは生徒に対し、学校備蓄のミネラルウオーターや布団、毛布、Ｔシャツなどを配った。毛布にくるまり、図書館の床に寝た。

食事は２日ほどカンパンなどだった。食材が入った３日目、先生たちが食堂厨房に入り、調理を始めた。連日の献身的な姿に感動すら覚え、自らも人のために、壊滅に近い街の復興に尽くしたい、と思うようになった。「価値観が一変しました」

「追いついてやる、と」

２年次の進路相談で公認会計士への気持ちを固めた。国家試験の三大難関試験（司法試験、医師試験）。勉強が容易ではないことは分かっていた。

３年生の夏に中大多摩キャンパスを２年連続で訪れ、「オープンキャンパス」の相談コーナーでは、会計士試験合格までの道のりを詳しく聞いた。志望する経済学部の学生でも中大経理研究所で勉強できるかと質問した。

学生研究棟「炎の塔」をはじめとする各施設を見学して、勉強する環境のよさと充実ぶりに心を奪われた。４階建ての学生食堂「ヒルトップ」にも驚いた。「これ全部、食堂なのか」

入学後は一直線で経理研へ。「『実学の中大』が誇る、伝統と実績の研究所」。難関突破へ腕まくりした。そこに会計などの勉強で先行する商業高校出身者が多数在籍していた。彼らは早い人で高校在学中、日商簿記検定１級に合格。簿記１級は会計士受験カリキュラムで入門に次ぐ第２段階の基礎で学ぶもの。商業高校生は高２、高３でホップ、ステップと着実に進歩を遂げていく。

須藤さんは普通科高校出身だ。野球にたとえると商業高卒業はリトルリーガーか。初心者にはまぶしく見えた。

「スピードが違います。頭の思考がどうなっているのか知りたかった。でも負けるもんか。追いついてやる、と」

身近に目標がいることで、やる気が倍増した。

「炎の塔」に固定席

腕に覚えがあった。小学１年生から始めた珠算である。高学年で全国のトップ争いをするまでに上達した。中学のころ、「自分の強みを生かせる道は何かを考えていたとき」公認会計士の存在と社会的立場を知った。

須藤さんは空手二段の腕前だ（本人提供）

スポーツは空手二段。こちらも全国レベルだ。中２で全国学年別大会ベスト８に名を連ねた。礼儀正しい須藤さん、作法はここで学んだ。

珠算と空手で培った集中力がある。大学近くの住まいから朝に自転車通学し、再びサドルにまたがるのは深夜の時間帯。開門の午前８時から閉門の午後11時近くまで、炎の塔やキャンパスで机に向かうことが多かった。

意欲が認められ、２年次の夏に炎の塔内に固定席を得た。「勉強するつもりできた」大学生活が軌道に乗った。

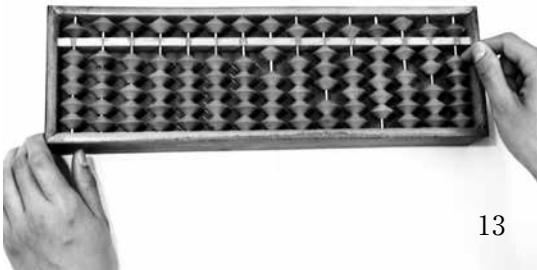
最初のチャレンジは短答式試験（財務会計論、管理会計論、監査論、企業法）。２年次・５月には苦い思いをしたが、「レベルが分かりました」と、年２回ある同年12月の受験では難なくクリア。

３年次の昨年８月の論文式試験（年１回＝会計学〈財務会計論、管理会計論〉、監査論、企業法、租税法、選択１科目）に合格して、晴れて公認会計士試験合格者となった。

経理研が掲げる「３年合格目標」通りになった。ガイダンスの一文にも納得した。「初歩から教えてくれますから（中略）簿記の知識も出身高校も全く関係ありません」

返信は「すげえ」

合格発表の日は忙しかった。前夜、仙台出身の先輩から「簿記を教えてほしい」と頼まれ、千葉市内のアパートへ。翌朝は発表を見に都内霞が関の金融庁へ急いだ。



掲示板に受験番号「101832」と自分の名前を見つけた。発見と確認は中大からの受験生で最速だった。居合わせた経理研の先生たちが自分のことのように喜んでくれた。

番号を指さす写真を撮りたい。近くにいた合格したばかりの見知らぬ学生に自らのスマホを渡して記念撮影を頼んだ。次は自分がカメラマン。写真付きメールを石巻市に住む両親へ送信した。続いてお世話になった高校教師、先輩、友人・知人へ。すぐに着た返信文には「すげえ」とあった。

弾む気持ちで向かった先は中大多摩キャンパス。「授業がありました。サボるわけにはいきません」。再び千葉へ移動して、約束の個人レッスン。祝勝会は「先輩と食べたラーメン」だった。その翌日、仙台へ帰った。

４年生となり、将来設計図もできあがりつつある。卒業後は内定先の都内の監査法人で実務経験を積み、いずれは被災地へ帰るつもりでいる。

「地元で暮らし、働きたい。僕の生活の場です。会計士業務を通じて復興の支援、起業家支援、いろいろなことに協力したいと思います」

被災地は“百人力”を得る。

やはり仙台の DNA ？

滑舌よく、トークもうまい須藤さん。照れながら「話上手だから、教師になれ」と高校教諭に勧められたことを明かした。「もう一つあって」と、またしても照れて言う。

「さとう宗幸さんの歌い方のモノマネをする」。ヒット曲『青葉城恋歌』で知られるフォーク歌手。1978年にリリースして、同年12月には日本レコード大賞新人賞を受賞した。

須藤さんの生まれる前のことだが、仙台の代表歌はいまでも歌い継がれている。

もっと知りたい へえ～

「公認会計士の使命」

公認会計士法第１条にある「公認会計士の使命」。

『公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする』

中大合格者62人

2015年 公認会計士試験

2015 年の公認会計士試験合格者の発表が昨年 11 月 13 日にあり、受験者 10,180 人に対し、合格者は 1,030 人、合格率は 10.3%だった。中大全体の合格者は 62 人。中大経理研究所受講生はそのうちの 51 人を占めた。（経理研究所の独自調査と公認会計士白門会の調査に基づく）

経理研受講生から１年生合格者が昨年に続き１人誕生した。２年生合格者は７人。現役合格者は 24 人、現役合格率は 47.1%。学部別では商学部 37 人、経済学部９人、法学部５人となっている。

全国最年少（19 歳）合格者 11 人中、５人が経理研受講生の１～２年生だった。